ともに生きる 思いやりの大切さ！

問合せ先　人権政策課　☎433・7160

「思いやり」とはどのようなものでしょう。その意味を言葉で説明するのはなかなか難しいものです。あえて言えば、「相手の立場になって考え相手の気持ちを大事にして行動する」ということと思います。日常生活の中でなぜ「思いやり」が大切なのか考えてみましょう。

数年前から、「思いやり駐車場」「ゆずりあい駐車区画」というものが推進されてきています。

これは、自治体によって名称は違いますが、障害者（内部障害のかたなど）や高齢者、妊産婦など、移動が困難なかたたちが利用できるように建物の近くに設置された駐車スペースです。

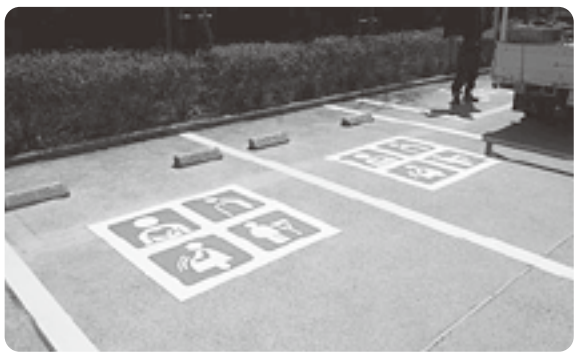
駐車場の利用対象者をマークで分かりやすくし、利用証の有無により適正な利用を確保することを目的とした制度です。

この取組みは、「車いす使用者用駐車区画」とは別に、移動に配慮が必要なかたのためのものであるという、みんなの理解と思いやりに基づいています。

障害者だけでなく、高齢者や外国人など、だれに対してもみんなが思いやりの心を持ち、自然に補っていけば、やさしい住みよい社会になっていくでしょう。

自然に、やさしい社会に

問合せ先　障害福祉課　☎433・7012



ある義足のスポーツ選手が「もし、車いす生活になったら、今の日本で暮らしたいとは思わない」と言ったそうです。これはどうしてでしょうか。

それは海外で、障害者が自然に街を歩いたり、交通機関を使って移動をしたり、レストランで食事をしたり、周りの人が障害者に自然に手を貸す風景を目にしてきたからだそうです。

車いすのかたがスロープを上って行くのに声をかけて後ろを押したり、スペースをつくってあげたり、耳が聞こえない（聞こえにくい）かたに身振り手振りや筆談をしてコミュニケーションをとったり、漢字にふりがなをつけたり…。

障害者や高齢者などだれかが困っているなと思った時は、そのかたが出来ないことや必要なことを考えて手伝えばいいのです。

また、困っていることを普通に伝えられる環境をつくっていくことが大切です。

「すみません」という気づかい

問合せ先　人権政策課　☎433・7160

憲法週間市民のつどい

現在の社会では、あらゆる場面で「マナー」や「ルール」を問われることが多くなりました。

たとえば、混雑した電車内にバギーカー（乳母車）が持ち込まれたとき、「狭い車内に場所を取って迷惑」と「子育て支援を社会で考える上で寛容すべき」という少なくとも2つの考え方が生まれます。

しかし、「マナー」や「ルール」は、民族習慣や個人の考え方などにより異なることも多々あります。

にもかかわらず、これを権利として主張し、その結果「黒か白か」また「勝ちか負けか」といった判断をしてしまいがちです。そうなると人間関係がギスギスし、生きづらい社会になってしまいます。

そこで、地域や職場などで少しでも良い関係をつくるきっかけとして、「生きている以上、誰もが多かれ少なかれ他人に迷惑をかけている」と考え、半歩下がり「すみません」という気づかいを持ってみてはいかがでしょうか。

この場合の「すみません」は、「ごめんなさい」とは異なります。「すみません」は、感謝も謝罪も、訪問するときの第一声にも使える言葉です。相手を気づかう人権を考えた道具のように思えます。「すみません」は私たちにとって、とても重宝する言葉ではないでしょうか。

「すみません」と言葉に出せなくても、相手を思いやる気持ちを態度であらわすだけで、相手へ気づかいが伝わることでしょう。

じんけん入門セミナー

市では、ゆたかなこころを育むために、じんけんセミナーや市民のつどいを開催しています。

～放課後子ども教室「お茶っ子広場」の取組みから～
茶の心と思いやり

問合せ先　社会教育課　☎433－7129

社会教育課では、地域の教育力を生かして、放課後や週末における子どもたちの安全・安心な居場所をつくろうと、放課後子ども教室事業を実施しています。

その教室のひとつに「伝統文化子ども茶道教室・お茶っ子広場」があります。

茶の心は戦国時代を通じて大切にされ、「茶道」として千利休により完成された日本の伝統文化です。茶の心とは、一杯のお茶を差し上げるおもてなしの心であり、人との出会いを大切にする心と言えるでしょう。

点（た）てたお茶は、お客様が茶菓子を召し上がって、ちょうどよい頃合いを見はからってお出しします。そして、自分は最後に飲みます。

茶道においては、自分を下げ、お客様には思いつく限りの丁寧さで対応します。

茶席では、その場で初めて出会った人たちが知り合い、互いを敬い合うことを大切にしています。お茶をいただく時には、茶碗を隣のかたの間に置き、「お先に」や「いかがですか」「どうぞ」というように互いを気づかいます。今の時代、そんな面倒なことをしなくても、自分だけさっさと飲めばいいじゃないかというかたも多いかもしれません。しかし、ただ一度隣合わせになり、共にお茶をいただくことになっただけの人であっても、互いに気づかい敬い合うことが、人間本来の大切な姿だと思います。

今の私たちは、少子化や核家族化により、昔のような豊かな人間関係を築くのが難しくなってきています。

そんな中、子どもたちは、お茶の作法を通して茶道の心に触れ、他者に対する思いやりの心を育んでいくのではないでしょうか。